鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第78号

2015年11月2日

東日本大震災被災地社叢復興支援事業

避難指示区域を含め、福島県で社叢実態調査

大杉神社オオヤマザクラは無事活着、春には開花も確認

これまで手つかずだった福島県での社叢調査の実施については前号でもお知らせしたが、10月8日から10日の3日間、放射能汚染により避難指示が出ている地域も含め、32カ所の社叢の実態調査を実施した。

調査員は糸谷正俊・社叢学会副理事長、有田和實・賀来宏和両社叢インストラクター、いわき市在住の会員熊谷泰人氏に、協力団体としてさわかみ財団の4人が加わった計8人。調査先はいわき市(9カ所)、広野町(2ヵ所)、楢葉町(3ヶ所)、波江町(避難指示区域・3ヶ所)、南相馬市(10カ所)、相馬市(3ヶ所)。

内陸部の一部の神社には無傷の所もあったが、多くは地震と津波による建物の損壊、石造物の倒壊・破損など被害は大きく、特に沿岸部では、津波による社殿と社叢の破壊に加えて、火災による被害も見受けられた。避難指示区域では神社、社叢ともに放置されたままになっている。

津波被災地以外の多くの社叢は比較的自然性の高い、良好な樹林を形成しており、避難指示区域内でも、立派な樹林を形成しているところが多い。これらは、アカガシ等の常緑広葉樹が優占するもの、ケヤキ・コナラ等の落葉樹が優占するもの、モミを交えたスギ・ヒノキの常緑針葉樹が混在した森で、沿岸部ではタブノキが優占する照葉樹林の特徴を示している。

福島での調査終了後、一部調査員は岩手県に足を延ばし、牡丹園の造成を予定している大槌稲荷神社(大槌町)で実現の可能性を調査したほか、昨年6月に、大杉神社(山田町)で社叢学会会員が植樹したオオヤマザクラの現況を確認した。オオヤマザクラは無事、活着しており、同行した佐藤律夫・三陸緑化代表によると、今春には花も咲いたとのことであった。

今回の調査の詳細は、今年度中にまとめ、社叢学会ホームページ等で発表する予定。

被災直後とあまり変わらない光景が拡がる
苕野(くさの)神社(波江町)

社叢インストラクター養成セミナー　受講者募集中！

11月17日(火)に越木岩神社(西宮)
18日(水)に枚岡神社(東大阪)で

社叢インストラクターが活躍する社叢をフィールドに

第67回　関西定例研究会　報告

2015年9月26日
（於　伏見稲荷大社儀式殿）

森林の樹上の節足動物の数、どうやって調べるか？

講　　師：渡辺　弘之（社叢学会副理事長・京都大学名誉教授）

樹上節足動物調査法　樹上にどのような節足動物が、どれくらいいるのか。これを調べるにはいくつかの調査法がある。

A　直接法（直接採集法）
B　間接法
1. 機械的方法（道具を使う方法）
　無差別採集法（補注網などを使って全部をとらえる）
　叩き落とし法（下に網などを置いて、叩いて落とす）
　吸引捕獲法（吸引管などを使って瓶の中に吸い込む）

2. 行動習性を利用した方法
　ライト・トラップ（光を使っておびき寄せる）
　ベイト・トラップ（餌を使っておびき寄せる）
　スリッキー・トラップ（滑り落ちたら出られない罠を使う）
　ペリット・カウント（吐き出した未消化物を計測）

3. 印をつけて再捕獲する方法（捕獲 - 再捕獲法）

4. 燻煙、ノックダウン（燻蒸）

若草山での調査　1974年に、松枯れ被害が広がっている奈良・若草山で、薬剤の空中散布が実施されることを知った。林床にトラップを設置し、空中散布によって落ちてくる樹上の節足動物を集め、その数と種類を調べれば、樹上にどのような節足動物がどれくらいいるのかがわかると思い、調査の許可を得て、1 m×1 mのトラップを10カ所設置した。

空中散布は、マツ枯れの原因となるマツノザイセンチュウを運ぶマツノマダラカミキリを駆除する目的で、5月と6月の2回、効力が1ヶ月間有効な薬剤量が散布された。散布は凪いでいる晴天の早朝に実施される。散布後24時間ですべての昆虫が落ちるという保証はないので、1週間にわたってトラップの回収に通った。その結果、1日目よりも数日後の方がより多くの死体が落ちることもあった。これは、葉や枝にしがみついていたものが、風のある日に揺らされて落ちるということだろう。

調査の結果、初回に680個体/㎡という数字が出た。この結果をもとに論文を書いたのだが、種類数は示していない。落下したものには幼虫・幼体が多く、特にトビムシ・ダニの類は成体でないと種類を確定することはできないなど、名前がわからないものが多かったからである。

「沈黙の森」にはならなかった　5月の薬剤散布で全滅すれば6月の散布では落ちてこないはずだが、6月にも200～300個体/㎡が落ちてきた。散布は範囲が広く、散布後に、散布地区外から飛んできたという可能性はあまりなく、おそらくは生き残っていたのだろう。その後、この薬剤散布は8年間続き、調査も8年間、16回も続けたのだが、毎年、200～300個体という数字が続いた。当時は、『沈黙の春』（レイチェル・カーソン著）が話題になっているときで、散布によって若草山に「沈黙の森」ができるのではないかと危惧したが、結果としては「沈黙の森」にはならなかった。

空中散布について批判的な自然保護団体が調査結果を見て、マツノマダラカミキリが1個体も落ちていないことを指摘し、薬剤の空中散布は無駄・自然破壊だという抗議もあったらしい。1㎡のトラップに1個体入るということは、1 haあたり1万個体いるということになり、そんなに沢山はいないだろう。トラップに入らなかったということは、いないという証拠にはならないとコメントした。大きなマツノマダラカミキリを殺す、それも1ヵ月間有効な薬剤量散布なので、トビムシやササラダニなど数ミリの小さな節足動物はすべて死ぬと思ったのだが、全滅はしなかった。貴重な研究成果だと思っているのだが、すべての節足動物は死んではいないとなると、この研究の評価が分かれる。

意外に少ない熱帯林　その後、1979～1981年に、タイ東北部の熱帯モンスーン林で、自分で殺虫剤を燻煙し、樹上の節足動物を調査をしたが、雨季でも250個体/㎡と、奈良・若草山のマツ林よりも小さな値だった。熱帯雨林にはどうも少ないということがわかった。その後、国内でもいろいろな森林で調査が行われたが、一般にブナ林などの落葉広葉樹には少なく、スギなどの常緑針葉樹に多いことがわかった。スギ林などでは、3,000個体/㎡も落下する。樹上節足動物の多くを占めるトビムシやササラダニなどは、生の葉を食べるのでなく、腐った落ち葉やごみなどを食べ、または木肌がうろこ状で、ここが隠れ場所にもなっていることなどによる。

次回予告【第68回関西定例研究会】

◆日　時：11月28日（土）　13:30～16:00
◆場　所：伏見稲荷大社儀式殿（伏見区藪ノ内町68）
◆テーマ：竹と暮らしていくための知識
◆講　師：柴田　昌三（京都大学大学院地球環境学堂教授）
◆ｺﾒﾝﾃｰﾀ：渡辺　弘之（社叢学会副理事長・京都大学名誉教授）

第66回　関東定例研究会　報告

2015年10月3日
（於　國學院大學）

木々も命あり　-山川草木悉皆成仏

講師：佐野　賢治（神奈川大学経済学部教授）

日本文化論としての『もののけ姫』

自然 - 人 - カミの関係は、木、林、森、山をカミが示現する場とし、山の神は里に降り、人は奥山を目指す。山の神は里の農民にとっては春秋に田の神と交替する神格として意識され、次第に常設化された奥宮（山宮）と本宮（里宮）の屋代（社）を行き来し、やがては里に常住するとされてきた。一方、山を生業の場とするマタギ（猟師）・杣（林業者）・木地師（ろくろ職人）など山人にとっての山の神は、山の幸をもたらす霊格として畏み恐れられた。その間を取り結んだのは山の宗教者、修験者であり、宮崎駿監督のアニメ『もののけ姫』（1997）でもそれらしき姿で登場している。

『天空の城ラピュタ』（1986）、『となりのトトロ』（1988）などの作品には気根・大樹の洞・里山を題材に、その基調には木にも命や心が宿るという樹霊信仰が一貫して流れている。『もののけ姫』はかわいらしい木霊や森の精が実際に登場するが、前記作品にくらべ主題がよくわからないという声が聞かれた。

『もののけ姫』の「もの」は宗教学・人類学でいう「マナ」に近い、自然または超自然的な霊的存在「カミ」であり、人や家に憑いて病気をもたらし命を奪う憑きもの、邪道な霊の発現として「物の怪」という負の表現を伴って『源氏物語』などの古典に登場する。日本語の「もの」は、霊的、物質的な存在の両方に使われる。室町時代の『付喪神記』の冒頭には、人が長年使用した器物、「物」は心を持つようになり粗末に扱うと人をたぶらかすと記される。

民俗伝承において、漁民は七浦を潤す鯨に戒名を付けてその霊を供養し、女人たちは2月8日に、針を豆腐に刺して感謝の意を表し供養する。正月には農具も人とともに歳を取る。生物・無生物を問わずその存在を擬人化して霊格を認める事例は豊富である。このようにすべての存在に霊魂が宿るという考えをアニミズムという。宮崎作品の底流には、まさに日本的アニミズムの伝統、八百万の神の考え方が流れている。

草木塔供養

樹木に対する信仰には大きく二系統ある。一つは、天から地、樹上から樹下へカミが降臨する「依り代的信仰」で、その代表樹種は常緑樹の松である。門松は正月様を迎える依り代であり、能舞台の影向の松に降臨したカミは役者の身体を通してその意を表す。もう一系統は、木そのものに霊が宿る「樹木信仰」である。

照葉樹林文化圏には、樹霊信仰と地母崇拝が合体し、根から枝葉、地から天への方向性を示し、木に母性を認める樹母信仰と称すべき信仰が展開する。

樹霊信仰を具体的に表すものに草木塔がある。草木塔の建立は、この世に存在するすべてのモノが仏になることができる種を宿しているという教え、仏教の本格思想に根ざしている。

山形県置賜（おきたま）地方に特徴的に分布し、江戸中期安永～寛政年間に作られたものは、釈迦如来、阿閦如来の種子と「一仏成道　観見法界　草木国土　悉皆成仏」の願文、文化年間頃のものは釈迦如来、大日如来の種子と「草木供養塔」、幕末以降はシンプルに「草木塔」と刻まれている。「草木国土悉皆成仏」の句は能の謡曲にしばしば登場し、広く民間にまで普及した。日本古来のアニミズムと外来の宗教である仏教教理の習合と考えられる。

「草木国土悉皆成仏」は読めば読むほど味わい深い。山川、虫魚も加え、捕鯨問題なども視野に入れると今日の地球環境保護の絶好の標語となる。『もののけ姫』は、日本の民俗文化が培ってきた自然 - 人 - カミの三者の共生・共存関係の在り方を集約して描いており、まさにアニメ映画を通じて世界に向けての自然環境保全メッセージとなる。山村では少子高齢化もあり棚田・山田の休耕や廃棄が目立つが、その跡には杉の木や針葉樹ではなく、元の植生、広葉樹を植えて自然に戻すなどの配慮が必要となる。共生の言葉の背後には、人と自然との生死をかけた苦闘が秘められ、その過程は幾多の民俗誌に記されてきた。「草木供養塔」は修験者の手によって始まりはしたが、日本人の慈愛に満ちた思考の表れであると考えることができる。

（文責・渡邉節子）

次回予告【第67回関東定例研究会】

◆日　　時：12月19日(土) 14：00～16：30
◆場　　所：國學院大學渋谷キャンパス120周年記念2号館1階　2102教室
◆テ ー マ：延喜式内社・千の杜を訪ねて～鎮守の杜の課題を探る～
◆講　　師：賀来　宏和（社叢インストラクター・
㈱グリーンダイナミクス代表取締役プロデューサー）

越木岩神社は今

「こしきいわの森を育てる会(仮称)」近く発足
「森の散策会」など社叢に親しむ催しも

隣接地でのマンション建設による影響が懸念されている越木岩神社社叢では、増井啓治・社叢インストラクターが樹木調査を行い、ナラ枯れ被害木の除去を兵庫県に要請するなど、社叢管理と長期的な経過観察に尽力している。

11月には崇敬者や近隣住民に限らず、遠隔地からも広く参加できる「こしきいわの森を育てる会(仮称)」(以後「育てる会」)を発足させ、森に親しみ、緑の環境を享受できるよう保全活動の輪を広げていこうとしている。先行事業として8月からは「森の散策会」を実施しており、原則として毎月第1日曜日の10:00〜11:00に、テーマを決めて社叢を観察しながら散策する。会の様子はニュースレターとして神社の掲示板に貼り出す他、社務所に設置して配布もしている。11月は大阪城築城の際に、石垣にと切り出されそうになりながらも断念され、当時のノミ跡が残るままに残された石に注目した。

「育てる会」では会への入会と、事務局補助ヴォランティア、「森の散策会」への参加を呼びかけている。いずれも問い合わせは越木岩神社(℡0798-31-0009　Fax0798-72-9006　email:shamusyo@koshikiiwa-jinja.jp　飯森隆光・越木岩神社権禰宜)まで。

越木岩神社社叢は、ヒメユズリハの群生地として兵庫県の天然記念物にも指定されている。境内からは大阪平野が一望にできる。爽やかなこの季節、ぜひ一度訪れられたい。

事務局から

- 今年度の会費未納の方には振替用紙を同封いたしました。何かと多端な折とは存じますが、社叢学会は会費で運営しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、12月末日までに入金の確認ができない場合は、「鎮守の森だより」等をお送りできなくなりますので、悪しからずご了承下さい。退会をご希望の場合は、会員番号とお名前をご記載の上、Fax・Mailでその旨、お知らせ下さい。
  銀行振込も可能です。三菱東京UFJ銀行　京都支店　普通口座6720345　特定非営利活動法人社叢学会　理事長　薗田稔　です。
- 下記の通り、『社叢学研究』14号への身近な活動報告と社叢を訪れた時の感想などを募集しています。「社叢訪問記」では、小さな発見、残念な思い、どんなことでも結構です。ぜひお寄せください。

編集後記

今月の電気使用量のお知らせが郵便受けに。どれどれ。げっ!　前年同月比45%も増えている!　これ、おかしくね?　だって、10月2日〜14日は事務所を閉めていた(えっ!)もん。

で、どっかおかしいんちゃう?　と関電に電話をするとすぐに調べに来てくれて、メータなどに異常はないんだって。じゃぁなんでなん?

そもそもの使用量がえらい少ないんで、ホンマにちょっとしたことで、割合はぼんと上がるんですわだって。確かに、1,000Wの45%は450Wだけれど24Wの45%は10Wだもんなぁ。。。

大騒ぎがちょっと恥ずかし。　(藤岡　郁)

原稿募集中!

「鎮守の森の活動報告」(祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題点など)や各地の「社叢訪問記」(各1,200字程度)の投稿締め切りは12月25日(金)です。

お気軽にご投稿ください!

＊書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい

発行人　社叢学会事務局　〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL 075-212-2973　FAX 075-212-2916
URL http://www.shasou.org　E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部　〒368-0041　秩父市番場町1-1　秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032　E-Mail shasou@hotmail.com